



●千葉大学教育学部附属小学校 教諭
中谷佳子

地図帳を活用して「聞きたい」「伝えたい」 内容を充実させる外国語学習の実践 ～“Fun”から“Interesting”への転換～

1 はじめに

2020年度から小学校中学年（3・4年生）では「外国語活動」が、高学年（5・6年生）では教科「外国語科」が始まり、必修化されました。

外国語特有のイントネーションやリズムによる歌やゲームで活動する授業を、多くの児童は楽しみ外国語に慣れ親しんでいます。ただ児童にはそれにとどまらず、外国語を使って、「聞きたい」「伝えたい」という「コミュニケーション」の本来のおもしろさを体験したり、世界に広がるさまざまな国の文化や人の営みに触れたりすることで、そのよさを感じてほしいと思います。そこでぜひおすすめしたいのが、地図帳の活用です。本稿では、第5学年“Where do you want to go?”の単元を例に、外国語学習において地図帳を有効活用する場面の具体例をお示ししたいと思います。

2 授業の実際と地図帳の活用

第1時 国名スリーヒントクイズで英語音声になれる

まず、担任とALTが行きたい国とその理由について楽しく会話をすることから授業を始めます。

担任：Where do you want to go?

ALT：I want to go to India.

担任：Why?

ALT：I want to eat curry. I like spicy food. How about you?
Where do you want to go?

担任：I want to go to the U.K.

ALT：Why?

担任：I want to see Big Ben.

これから学習することが、「旅行」であることがわかったら、ALTのスリーヒントを聞き、地

図上でその国の場所を探して、国名を答えます。

児童：Where do you want to go?

ALT：①It's in Asia.

②The flag's colors are red and yellow.

③This country is famous for The Great Wall.

ここで、授業の導入時に使用したいのが、地図帳（令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』）p.1～3「地図で世界発見!」〈②^{*}p.1～3〉（**図1**）です。この地図帳は地図上の情報が厳選されていること、そして何より国名がカタカナと英語で表記されているので「外国語科」で活用するのに適しています。「外国語科」では、「聞くこと」「話すこと」に加えて、「読むこと」「書くこと」の4技能を育成することが求められます。そのため、さまざまな場面で英単語やアルファベットに慣れ親しんでいく必要があります。児童は地図の国名の英単語を見ながら、ALTに続いて発音することができます。

第2・3時 行きたい国と理由を考える

前時に学習した国名を復習した後、導入で行った担任とALTの会話を想起させ、やり取りを確認します。本単元では、このやり取りが児童の「聞きたい」「伝えたい」を生み出す原動力となります。そのため伝えたいことを考えたり、伝える準備をしたりする十分な時間を確保することが必要です。

まずは、地図帳p.1～3やp.83〈②p.75〉からの各州の地図をめくってみるように促します。それぞれ「集まれ!世界の子どもたち」「世界のSDGs」など、その国の人々の営みや文化に触れることのできるコラムがあります。また、食べ物や動物、観光名所などおもしろい絵記号がたくさんあることに児童は気付きます（**図2**）。

^{*}②以下は、令和2年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』のページをさす。

／ 今号の別冊ポスターになっています。ぜひ活用ください。 ／



図1 「地図で世界発見！」
(令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』p.1～3)

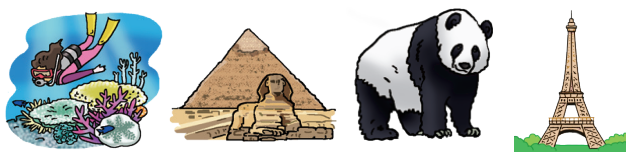


図2 各州地図ページの絵記号の例 (グレートバリアリーフ、
スフィンクスとピラミッド、パンダ、エッフェル塔)

地図帳のQRコンテンツ「世界のあいさつ」では、いろいろな国の「こんにちは」を聞くこともできます。地図帳を使うことで、多くの教材を用意しなくても、児童は自分の興味・関心に合わせて、行きたい国を決めることができるでしょう。

行きたい国が決まったら、パソコンを用意して、国旗や国の場所、行きたい理由を示す画像をパワーポイントに準備します。QRコンテンツには、「外国語の地図」としてアジアやヨーロッパ、アメリカ合衆国の地図があり、それを切り取って使うこともできます (写真1)。

第4時 行きたい国について話したり、聞いたりする

導入は、ALTのヒントをお手本にして、児童が作ったスリーヒントクイズで国名の発音を確認したり、担任とALTとのやり取りを復習したりします。その後2人組を作り、実際にやり取りをしていきます。その際に小さなシールを渡し、「地図で世界発見！」で友達が行きたい国に貼るよう促します。「どの国に行きたい子が多いのかな」「自分と同じ国に行きたい子は何人くらいいるのかな」と、児童は友達の話に興味・関心をもって互いに聞いています。授業の終わりには、学級のみんなに行きたい国を発表する機会もつくりま



写真1
スライド資料作りの様子
授業では令和2年度版の地図帳を使用しています。

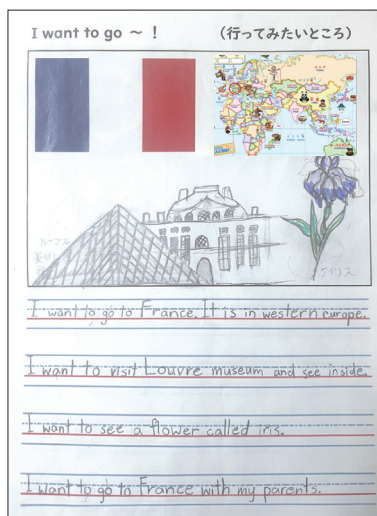


図3
児童が作成したワークシート

第5時 行きたい国のワークシートを書く

本時は、前時までの学習を、「書くこと」で表現します。児童が作成したスライド資料の画像をワークシートに貼り付け、伝えたいことを英文で書いていきます (図3)。自分で考え、何度も発話練習した表現だからこそ、児童は抵抗なく文章を書くことができます。中には「両親と行きたいって書きたいな」と新たな表現に挑戦する児童も出てきます。

3 おわりに

本稿では、第5学年の学習を例に「外国語科」における地図帳の活用をご紹介しました。もちろん他学年、他単元でも、その可能性は無限大です。これからも、地図帳を使って、その国の生活や文化にふれることで外国語のおもしろさを“Fun”から“Interesting”へ転換していきたいと思います。